長岡中央綜合病院　倫理委員会　オプトアウト書式

①研究課題名	がん性創傷部の剥離刺激を軽減するための方法
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者　小川知恵	
2021年1月～2024年3月の間、乳がんの皮膚浸潤部からの出血を伴う患者10名。	
③概要	

【はじめに】

乳がんの進行や再発などで皮膚浸潤が進むと、潰瘍化し、浸出液・出血・痛み・臭気が生じ、ボディイメージの変容や患者の QOL を低下させてしまう。潰瘍部は発育に伴う急速な血管新生により、血管壁がもろくなっていることや腫瘍の血管への浸潤が生じることで出血しやすい状態となり、少しの刺激でも容易に出血を起こす。特に、出血は患者の不安を強くさせ、処置に恐怖感が生じてしまう。創傷部には非固着性ドレッシング材を使用するが、剥離時の痛みや出血を伴うことがあり、金銭的負担も大きいと感じている。そこで、剥離時の出血や痛みを緩和すれば、患者の恐怖心も緩和し、セルフケアの確立に繋がると考え、創傷部の剥離刺激を軽減させる方法を検討したので報告する。

【対象】

当院において、2021 年 1 月～2024 年 3 月の間、乳がんの皮膚浸潤部からの出血を伴う患者 10 名。

【方法】

外来診療時の潰瘍部処置時に口頭にて、痛みの有無・程度を確認する。潰瘍部に貼付しているガーゼを剥がす際は、ガーゼを濡らさずに剥離する。目視で潰瘍部からの出血の有無を確認する。患者へケア方法を指導する。指導内容は、①潰瘍部の洗浄。②ガーゼの表面に油性機材の軟膏や皮膚保湿剤を塗布。③ポリエチレン製のネットを潰瘍部の大きさに合わせてカットする。③潰瘍部にネットをあて、その上から軟膏付きのガーゼで覆う。

【結果】

処置前のレスキュー薬使用者は2名。モーズペースト塗布や洗浄時の痛みは生じるが、剥離刺激の痛みでガーゼ交換ができなかった患者はいなかった。潰瘍辺縁からの出血は、滲む程度の出血は4名。流れ出る出血は3名で、その内アルギン酸ドレッシング材を使用した患者は2名だった。

【考察】

潰瘍部の部位や形状、大きさ、出血や浸出液の量、痛みの訴えは、個々で異なる。痛みの原因も創傷自体の痛み、治療や処置による痛み、がんの浸潤に伴う痛み、外的刺激に伴う痛みがあるが、ポリエチレン製ネットを使用することで、皮膚とガーゼの密着を予防し、創処置時の剥離刺激による痛みの軽減は出来たと考える。

1人あたりのガーゼ使用量の把握は困難であるが、非固着性ドレッシング材と比較すると、ポリエチレン製ネットは1枚4.2円と安価であり、ガーゼ交換が頻回な患者にとっては、金銭的な負担軽減にも繋がると考える。

④申請番号	
⑤研究の目的・意義	がん性創傷部の処置による負担を軽減し、患者のセルフケア確立を目指す。